

全国学力学習状況調査の結果と分析 (No.2)

八幡西中学校長 橋詰勝司

先月に続き、全国学力学習状況調査の結果と分析を保護者や地域の皆様にお知らせします。今回は生活面や行動規範、学習への関心や意欲についての内容です。

【よい点】

- ・ 「朝食を毎日とっている、毎日同じくらいの時刻に起床している」と答えた生徒は90%を超えている。家庭での基本的な生活習慣は比較的身につけており、一日のスタートは良い状態で切っている。
- ・ 「将来の夢や目標を持っていますか」のプラス回答は、県や全国よりよい結果となっている。総合的な学習の時間や夢トークなどのキャリア教育、公民館活動など、地域との連携や地域の教育力を生かした活動の成果が出ている。
- ・ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」のプラス回答は85%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」のプラス回答は90%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」のプラス回答は95%であり、多くの生徒が正しい人権感覚や道徳性を身につけている。
- ・ 「土・日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答は、2時間以上が全体の73%を超えている。本校の生徒は、県や全国の生徒より休日に家庭学習に取り組む時間が長い。
- ・ 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」のプラス回答は約90%、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」のプラス回答は67%。県や全国の回答を大幅に上回っており、中学生が地域の教育力に支えられ、地域ぐるみで中学生を育てていただいていることがわかる。
- ・ 「学校で生徒同士で話し合う活動において、友だちの考えを受け止めて自分の考えを伝えたり、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」、「学級の生徒と話し合う活動において、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」のプラス回答はどちらも90%程度と高く、県や全国の回答を大幅に上回っている。話し合い活動をもとにした協働的な学習の成果があらわれている。
- ・ 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用していますか」の質問に対しても、県や全国よりプラス回答が圧倒的に多い。教職員がICT機器の活用を授業等で積極的に進めている成果が出ている。今後も、ICT機器の活用を積極的に進めていきたい。



【課題点】

- ・ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対するプラス回答は67%と10ポイント近く県や全国の回答を下回っている。全ての生徒が安心して登校でき、魅力を感じる学校づくりをさらに進めていきたい。
- ・ 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」のプラス回答は70%で、県や全国の子どもたちと比較するとやや低く自分の思いや感じたことを表現することに苦手意識をもっている生徒が少なくない。表現力を高め、コミュニケーション能力をさらに高めていきたい。
- ・ 国語や数学の学力は比較的高いが、国語や数学の授業に対する生徒の関心や意欲は県や全国の生徒と比べると低い。関心や意欲を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成していきたい。

学校ボランティア活動をありがとうございました

12月の築山の剪定や剣道場北側の杉の伐採に続き、今月に入ってから、梶田義雄さん、神座峰治さん、小林茂樹さん、中村 徹さんが、剣道場北側のケヤキの高木とテニスコート北側のカイズカイクイの伐採作業に取り掛かってくださっています。これらは、枝葉の処理や校舎とフェンスへの覆い被さり、周囲の日当たりが悪くなるなどの影響が大きく、学校としては大変困っていました。しかし、4名の方のご厚意により、学校敷地内の美しい環境づくり、安全、日当たり等を一度に解決することができます。

また、村土三郎さん、武藤好忠さん、武藤宣勝さん、福手 正さんは、雪が降り積もったとき、学校に向かう東西の坂道を、生徒が通る前にきれいに除雪してくださっています。おかげで生徒は安全に登下校ができます。秋の除草作業をはじめ、学校を支えてくださっている地域の皆様のご支援に、心よりお礼申し上げます。



全国で活躍する八西中の卒業生

本校の卒業生である済美高校1年生の櫻井希美さんが、1年生ながら夏のインターハイに出場し、全国デビューを果たしたという記事を7月の学校便りで紹介しました。その後、希美さんは、10月に愛媛県で開催されたジュニアオリンピックU18陸上競技大会という高校生年代の国内のトップアスリートが参加する大会に出場し、見事優勝。日本一の選手となりました。

また、12月に開催された全国高校ラグビー大会には、関商工高校2年生の藤村悠人くんが登録メンバーとして全国大会に出場しました。

全国で活躍している先輩がいるということは、在校生にとっても大きな励みとなり、目標にもなります。今後のさらなる活躍を楽しみにしています。